



## 福祉職

【採用】  
令和2年度 経験者2級職(児童福祉)  
【所属】  
荒川区子ども家庭総合センター  
在宅支援係  
【前職】  
地方公務員(政令市) 10年勤務

### Q1. 転職しようと思った理由やきっかけについて教えてください。

同じ児童福祉の制度であっても、運用の仕方や組織の役割分担は自治体ごとに異なります。児童福祉専門職として包括的な成長ができるよう、様々な現場を見ることを大先輩たちから進められ、前職10年の節目に転職を考えました。

### Q2. 特別区(荒川区)を志望した理由を教えてください。

児童相談所と要保護児童対策地域協議会が一体となった、「子ども家庭総合センター」という新しい組織が開設すると伺い、志望しました。荒川区ならではの町文化の残る地域特性と、コンパクトなエリアで、フットワーク軽く支援を展開できることも魅力に感じました。

### Q3. 前職はどのような仕事をしていましたか。

また、前職との違いはありますか。

児童相談所と要保護児童対策地域協議会調整機関(以下要対協)の双方で、児童福祉分野のソーシャルワーカーとして勤務をしていました。児童相談所では相談支援の他、里親さんの支援と制度の普及啓発を担当する系の経験が長く、全国の担当者とやりとりしながらとても楽しく働いていました。

要対協では、地域の関係機関の方々との連携を調整する役割を担っていました。辛く厳しい状況に立ち会うことも度々でしたが、関係者たちと「皆で子どもとその家族を支えているのだ」という一体感のある協働関係を築くことができ、児童福祉の仕事が大好きだと感じながら過ごすことができました。

私はこれまでの経験を活かせるように、「児童福祉」の経験者として入庁しています。

### Q4. 今の仕事内容を教えてください。

また、今の仕事のやりがいや魅力を教えてください。

入庁初年度はお子さんのご相談全般を受けておりましたが、現在は里親担当児童福祉司として勤務しています。具体的には、フォスタリング機関と連携し、区内の里親さんと協働しながら

ら、里親さんの元で暮らす子どもたちが安心して自分らしく過ごせるよう、都内の関係各所との連携を円滑にするための調整役を担っています。

子どもも大人も、人によってできた傷は、人によってでしか癒せないのだと、この現場に立ち続ける中でつくづく思います。里親さんは人生をかけ、傷の連鎖を断ち切ろうと、日々子どもたちに愛情を注いでいます。うまくいくこともあれば、うまくいかないこともある。正しいか間違っているかという単純な二元論ではなく、ただ、たくさんの人生の交差点に私も居させてもらっていて、その中で気づかされること、教えていただくことがたくさんあります。

今がどれだけ大変で、過去にどれだけ残酷なことがあったとしても、この瞬間の出会いに感謝し、「目の前のこの人」が真に望む未来に向け伴走できることが、この仕事の最大の魅力であると思います。

### Q5. 入区後に前職の経験や知識が生きた場面があれば教えてください。

どんな局面であったとしても、そしてたとえ時間がかかったとしても、地道な積み重ねと努力を続けていくことの大切さや、粘り強く踏みとどまる勇気を持つことが必要であることは、今まで出会ってきたご家族や子どもたちと過ごした時間が教えてくれたことです。

迷いや悩みの多い現場で、嵐のような状況の中、「目の前のこの人」の力を信じて踏みとどまることの意義を、日々の仕事へ向かう姿勢から伝えていけることは、経験者ならではの強みであると考えています。

### Q6. 職場はどのような雰囲気ですか。

若手の職員がとても多い、フレッシュな職場だと感じています。ご家族の大変な局面に立ち会う厳しい職場でもありますが、それでも和気あいあいとした雰囲気があり、お互いに支え合う様子が職員間に見られるところが魅力だと思います。

### Q7. 荒川区に入ってよかったことを教えてください。

「自分の手の届くところまで手を伸ばし、サポートしたい」という想いを持つ方が、職員にも区にお住まいの方の中にもたくさんいらっしゃるんです。辛いこともありますが、日々の出会いに支えられ、この仕事を続けられていると感謝しています。

### Q8. 休日や退庁後の過ごし方について教えてください。

自宅でのんびりしたり、近所をジョギングしたり、友人と一緒に過ごすことが多いです。趣味はツーリングで、時々愛車のリトルカブに乗って遠方へ出かけています。清流沿いの山道を走らせることが好きなので、片道2~3時間かけて飯能や奥秩父、青梅などまで足を伸ばしています。気の向いた所で下車し、河原へ下りて木陰でぼんやり過ごす時間が自分の癒しとなっています。

### Q9. 経験者採用での就職を考えている方にメッセージをお願いします。

毎日のあらゆる場面で、これまでの経験が生きていると感じています。行政だから踏み込める現場、行政だから展開できる可能性がたくさんあります。複雑化する福祉行政の第一線で、同じ専門職として共に働く仲間が増えると嬉しいです。